

共生願い絵本再び

全盲の藤井さん、英語版刊行

県立知的障害者施設「津久井やまゆり園」(相模原市緑区)で入所者19人が犠牲となった事件から26日で4年。事件の裁判が終わり、死刑判決が確定してから初めて迎える「鎮魂の日」に、全盲でNPO法人日本障害者協議会(JD)代表の藤井克徳さん(71)が5年前に手掛けた絵本「えほん障害者権利条約」(汐文社)の英語版を刊行する。「19人の思いを背負い、二度と事件を繰り返させない」との決意を込める。

(石川 泰大)

障害者の差別禁止や社会参加を促す権利条約は2006年12月に国連総会で採択され、日本も14年に締結。そんな条約の意義を子どもたちに分かりやすく伝えようと、15年5月に日本語版を刊行した。全国の小中学校の図書館などに配架され、その数は2万部を超えるという。

権利条約を擬人化した「イエローボン君」が、条約を根付かせながら世界を旅して日本にたどり着くまでを描いた物語。藤井さんが文と構成を練り、そのイメージを版画家の里圭さん(43)がぬくもり

ある版画で表現した。英語版と同じ示す北極星でもあるのと同様だ。

ある版画で表現した。英語版と同じ示す北極星でもあるのと同様だ。

ある版画で表現した。英語版と同じ示す北極星でもあるのと同様だ。

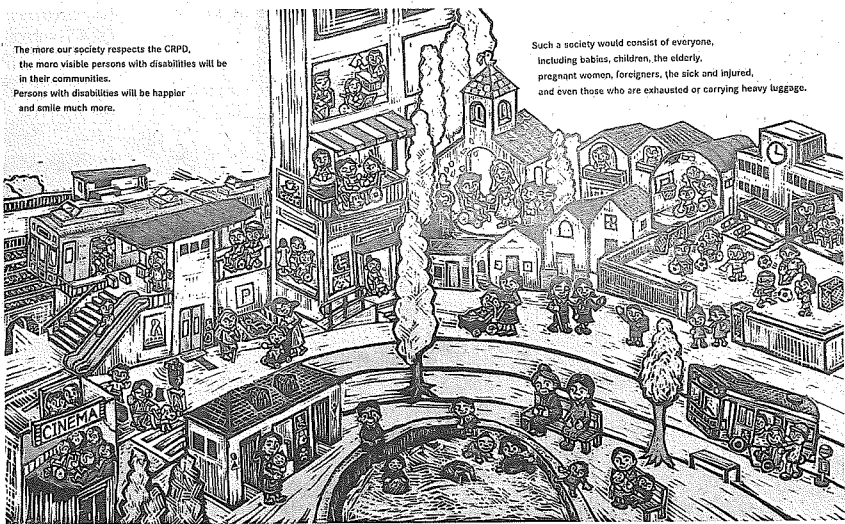
やまゆり園 事件4年

ある版画で表現した。英語版と同じ示す北極星でもあるのと同様だ。

ある版画で表現した。英語版と同じ示す北極星でもあるのと同様だ。

井さんの目指す「未来予想図」だ。△変わらねば あの日以前と後とは 行く手照らせし19のトーチ▽あの日から4年。藤井さんは事件直後に作った短歌を思い返すたび、苦い思いが込み上げるという。社会に根付く障害者への差別や偏見をなくすことはできたのか。共生社会の実現に近づけたのか。答えはいずれも「ノー」。なぜ事件が起きたのか、責任能力の有無のみを争った裁判で明らかにならなかった背景要因の解明が必要と考えている。藤井さんは言う。「僕たちにできることは亡くなった19人の思いを背負い、事件を一度と繰り返させないこと」。その一歩として、この絵本を通じ、子どもと親が障害について話。きっかけになればと願う。

英語版絵本は税別18800円。問い合わせは、汐文社03(68662)5200。



●藤井さんのお気に入りのページ。障害者と健常者が共に街で暮らす様子が描かれている。「やまゆり園事件が問うているのは社会の寛容性だ」と語る藤井さん＝東京都中野区